

7.3 令和2年度で終了した計画研究

各種霊長類の発達と加齢に関する総合的研究：特に、こころ・からだ・くらしの観点から

実施期間：平成30～令和2年度

課題推進者：足立幾磨、友永雅己、宮部貴子、林美里、服部裕子

平成30年度から開始された共同利用・共同研究プロジェクトの計画研究「各種霊長類の発達と加齢に関する総合的研究：特に、こころ・からだ・くらしの観点から」では、胎生期から老年期までの各年齢段階におけるこころ・からだ・くらしの変化とその相互作用について、比較認知科学、行動学、形態学、生理学・獣医学、動物福祉学など多様な研究手法のもと研究を推進した。3年間の採択課題は以下のとおりである。特に、実験室や放飼場などでの認知実験や社会行動の観察、身体機能の発達の变化、障害・加齢にともなう健康管理などに焦点を当てた多様な研究がおこなわれた。

研究実施者

<平成30年度(2018)>

- A-22 チンパンジーの口腔内状態の調査と歯科治療法の検討(桃井 保子)
- A-23 ヒトとチンパンジーにおける「平均」の知覚に関する比較認知研究(伊村 知子)
- A-24 チンパンジーにおける健康な加齢にともなう認知的機能やモノとの相互作用の変化(原田 悦子)
- A-25 霊長類における音声コミュニケーションの進化および発達過程の研究(平松 千尋)
- A-26 ヒトおよびチンパンジーにおける協調行動の比較発達研究(工藤 和俊)
- A-28 触覚情報を用いたチンパンジーの個体識別および課題反応との関係分析(田中 由浩)
- A-29 芸術表現の霊長類的基盤に関する研究(齋藤 亜矢)
- A-30 霊長類の加齢誘引疾患に関する研究(鯉江 洋)
- A-31 動物園のチンパンジーにおける口腔内状態の調査(生江 信孝)
- A-32 チンパンジーを対象としたアイ・トラッキングによる記憶・心の理論・視線認知についての比較認知研究(狩野 文浩)
- A-33 脳性麻痺チンパンジーへの発達支援と養育環境整備(竹下 秀子)

<令和元年度(2019)>

- A-01 アイ・トラッキングによるチンパンジーの社会認知研究(佐藤 侑太郎)
- A-08 チンパンジーを対象としたアイ・トラッキングによる記憶・心の理論・視線認知についての比較認知研究(狩野 文浩)
- A-22 動物園のチンパンジーにおける口腔内状態の調査(生江 信孝)
- A-23 チンパンジーの口腔内状態の調査と歯科治療法の検討(齋藤 渉)
- A-24 触覚情報を用いたチンパンジーの個体識別および課題反応との関係分析(田中 由浩)
- A-26 動物の画像からの個体識別のためのパターン認識手法の開発(森 裕紀)
- A-27 The Bossou Archive Project (Daniel Schofield)
- A-28 ヒトとチンパンジーにおける質感知覚に関する比較認知研究(伊村 知子)
- A-29 霊長類の循環器系加齢誘引疾患に関する研究(鯉江 洋)
- A-31 チンパンジーにおける健康な加齢にともなう認知的機能やモノとの相互作用の変化(原田 悦子)
- A-32 脳性麻痺チンパンジーへの発達支援と養育環境整備(竹下 秀子)
- A-33 芸術表現の霊長類的基盤に関する研究(齋藤 亜矢)

<令和2年度(2020)>

- A-22 アイ・トラッキングによるチンパンジーの社会認知研究(佐藤 侑太郎)
- A-24 ヒトとチンパンジーにおける質感知覚に関する比較認知研究(伊村 知子)
- A-28 アイ・トラッキングを用いたチンパンジーの社会認知の比較研究(狩野 文浩)
- A-29 霊長類の循環器系加齢誘引疾患に関する研究(鯉江 洋)
- A-32 動物園のチンパンジーにおける口腔内状態の調査(生江 信孝)
- A-33 チンパンジーの口腔内状態の調査と歯科治療法の検討(齋藤 渉)
- A-34 触覚情報を用いたチンパンジーの個体識別および課題反応との関係分析(田中 由浩)
- A-35 脳性麻痺チンパンジーへの発達支援と養育環境整備(竹下 秀子)
- A-36 The Bossou Archive Project (Daniel Schofield)